

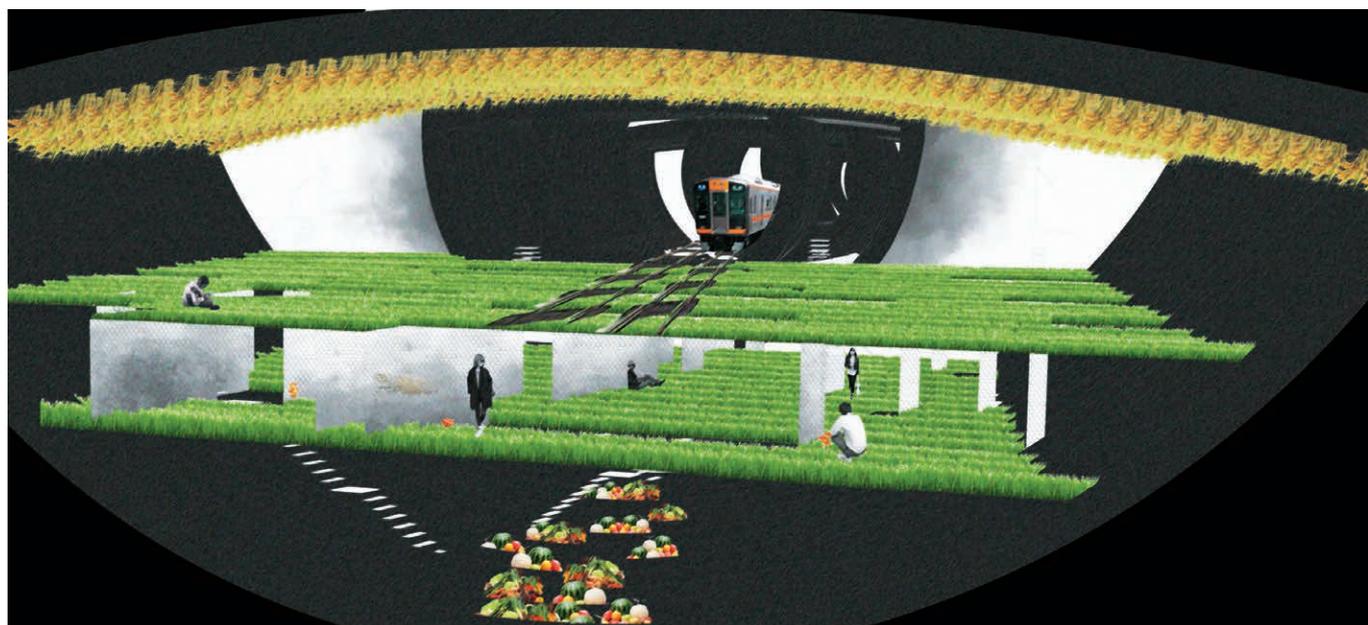
名城大学建築同窓會會報

●発行/2016年4月1日 ●編集/名城大学建築同窓會會報委員會

No.144

INDEX

会長・学科長あいさつ	1・2
キャンパスニュース	2
情報交流会	3
支部だより	3・4
現場見学会	4
同窓会新規ホームページ	5
建築学科教職員	5
建築同窓會賞	5
就職情報	6
平成26年度事業報告	7
平成26年度決算報告	7
平成26年度会計報告	7
平成27年度事業計画	8
平成27年度予算	8
会則	9
表紙・裏表紙解説	10
平成27年度役員	10



最優秀賞 15047の緑景 松田 茉利奈



建築同窓会会長

石川 豊

(昭和47年卒)

同窓会員の皆さま方には日頃より同窓会活動に多大なるご尽力、ご支援を賜り深く感謝申し上げます。

我が母校名城大学は諸先輩、大学当局、現役学生のご努力により益々名声が高まっていますことは大変頼もしく、嬉しく思っている所であります。

一昨年12月、赤崎先生のノーベル物理学賞受賞、昨年4月には建築学科より初めて吉久教授が学長に就任されましたことは卒業生として大変誇りに思います。又、H28年4月にナゴヤドーム前キャンパスが開校します。今、大学を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、少子化により進学者数減少が現実問題として迫ってきております。それは取りも直さず大学の魅力、強みが問われている中、建築同窓会としても活動内容の見直し、同窓会員から必要とされる活動にしていかななくてはならないと考えております。

27年度の主な活動として会報発行(6,500部郵送)、建築学科支援(3回)情報交流会の開催(参加者94名)等役員、会員皆さま方のご協力により実施してまいりました。引き続き28年度においては情報発信方法の見直し、財政の安定化を是非実現したいと役員会で検討協議をしてまいりました。

28年度、新たに取り組む大きな柱としてHPの立ち上げがあります。

現在、同窓会HPは休眠状態であり開いた方はがっかりされたと思います。

会員皆さまに情報提供をさらに高めるようHP立ち上げの作業を進めており、今年5月会報の発行と併せて新バージョンにてUPする予定にしております。

その際、会報は引き続き発行しますが会報郵送は希望者のみにさせて頂き、会報発行郵送の費用負担を軽減したいと考えております。その他未だ財政の安定化、情報交流会、建築学科支援の充実等取り組むべき課題はありますが私以下、役員一同力を合わせて取り組んでまいりますので会員皆さま方の一層のご理解、ご支援賜りますようお願いいたします。

もう一つ、私からのお願いごとで恐縮ですが名城大学では現在開学90周年事業の一環として卒業生皆さま方より暖かいご支援(寄付金)を募っていますので何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、会員皆さま方の益々のご活躍とご健勝を祈念いたしまして私からの挨拶とさせていただきます。

平成28年3月吉日

学科長あいさつ



建築学科長

村田 賢

名城大学理工学部建築学科・同大学院建築学専攻の卒業生・在校生をはじめ、関係者各位の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より当学科の諸活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

時が経つのは早いもので、赴任以来40年になります。先輩方の後ろ姿を見ながら日々過ごしてきましたが、もはや学科で最年長です。寂しい思いと共に、学科の将来を見据え、奮闘している今日この頃です。近年、教員の構成が大きく変わり、教室全体の雰囲気も変化しています。年長者が減少し、45歳前後の若い先生が多数を占め、教育・研究と活気にあふれています。さらに来年度、若い3人の先生、石井准教授、高橋准教授、米澤助教をお迎えできることになりました。益々充実した教授陣になるものと自負しています。また溝口先生が退職されます。定年なので仕方がありませんが大変残念です。

大学就学人口の減少で志願者数は年々減少しています。今年はさらに文高理低だそうで学科にとって厳しい状況が予想されました。ところが、今年の建築学科への希望者は前年度比25%の増加となり、理工学部で話題になっています。その要因は不明ですが、建築学科にはデザイン系を含むため、他の工学系学科とは異なる傾向となったのかもしれません。ともかく、これが一過性にならないければと願っています。

建築学科学生の気質や資質に大きな変化が見られます。呼応して体験型教育やアクティブラーニングなど新規の教育法を導入しています。ただ、地道に知識や能力を獲得する学問は苦手なようです。デザインや模型造りなどに多くの時間を割き、工学系技術の習得にはあまり興味を示しません。自宅学習を行う学生も減少しており、知識不足にならないか心配です。建築学全般に幅広く基礎知識を身につけるよう努力してほしいものです。

就職状況は、前年度とそれほどの変化は見られません。やはり、設計事務所などデザイン系の求人が少なく、学生は就活に苦勞しています。何卒、就職活動や就職先の紹介など、多数のご支援をお願い致します。

最後になりましたが、同窓会をはじめとする当学科の関係者の方々の、益々のご発展とご健康を祈念し、学科長の挨拶とさせていただきます。

キャンパスニュース

2016年4月より、建築学科に3名の新任教員をお迎えすることになりました。環境設備分野の石井仁准教授、構造分野の高橋広人准教授、歴史意匠分野の米澤貴紀助教です。若手の先生方に加わっていただくことで、建築学科の教育・研究の発展が大いに期待されます。新しい先生方のご活躍が望まれます。



平成27年度情報交流会

2015年11月28日(土)、建築同窓会の「情報交流会」が名古屋市中区のアイリス愛知に於いて開催されました。近年この交流会は11月に開催されております。この会は1年に1回名城大学建築学科の卒業生すべての方を対象にした交流会で、卒業生であればなたでも参加できます。卒業生による講演会と立食パーティー形式の懇親会を主体にして、学生さんからご高齢の卒業生まで非常に幅広い年代の方と、大学関係者および現職の先生、また退職された先生にもご参加頂き、様々な方と気楽に交流が出来る楽しい会を目指しております。

当日は16:00から講演会が開催されました。昭和48年卒業の伊藤京子様のご講演でしたが、伊藤様の建築士としてのご活躍や幅広い活動をお聞かせ頂きました。具体的には建築士会で女性部会を立ち上げた事をはじめ、建築関連分野で多くの活動をされているそのお話を伺いました。伊藤さまのお人柄が、周りの人達に影響をあたえ、様々な活動をされているその様子が想像できました。本業の住宅設計のその作品をスライドで見せて頂いた後は、ご自身で撮影された万博の写真をご紹介頂きました。実際に海外に足を運んで、長年に渡り様々な万博を見続けておられるとの事で、最近行かれたミラノ万博の写真を詳しい解説と共に見せて頂きましたが、大変興味深かったです。

講演会の後、懇親会場に場所を移し、まず初めに名城大学モダンジャズ研究会による演奏が披露されました。大学関連のいろいろなイベントで活躍されている有名なバンドですが、その演奏は期待通りとても素晴らしかったです。

懇親会の参加者は総勢94名でした。校友会をはじめ理工同窓会や各課同窓会の方も多数ご参加頂きまして、祝辞を貰うなど、新たな交流を深める事が出来ました。アイリス愛知の食事もとてもおいしく、2時間の懇親会もあっという間に時間が過ぎ、おそらく参加された皆さんもご満足頂けたと思います。今後ともこの会がより多くの方にご参加頂けるよう、また有意義な会となる事を模索しております。一度も参加されたことがない方は是非一度ご参加ご検討ください。お一人でも気軽にご参加頂ければと思います。是非皆さんの一層のご支援をよろしくお願いいたします。

第21回名城大学建築同窓会情報



▲建築学科長挨拶

第21回名城大学建築同窓会情報



▲建築同窓会会長挨拶



▲名城大学モダンジャズ研究会

支部だより

『岐阜県支部』だより

岐阜県支部 支部長 水谷 武 (昭和34年卒)

平成9年2月23日に設立総会を開催して、今年で19年目を向かえることとなりました。毎年定時総会は毎年開催しており、今年度の総会は数えて第20回目となります。各会にはそれぞれ数十人の会員が、年に一度の逢瀬を楽しみに集まってきた旧交を温めておりますが、参加する顔ぶれは毎年ほとんど変わらず、しかも高齢者が大部分を占めています。

かつては学閥とか、門閥とか、そういった出身校や家柄などが重要視されたものでした。さらに出身地の地縁につながる強力なグループもありました。しかし最近の人脈は少し違ってきました。出身校や、家柄や出身地などにはあまりとらわれず、むしろ個人のキャラクターとか、趣味、嗜好とか、さらに将来へのビジョンなどのほうが重要視される傾向にあります。先輩と後輩の間でもそうです。出身校が同じであるとか、同県人であるとかは古い仲間意識となってしまいました。

このままでは党支部も自然消滅となってしまいうでしょう。次の世代、次の次の世代の若い卒業生たちが違った価値観のもとに、新しい岐阜県支部を再生してくれることを期待しています。

今年も6月に定時総会を開催する予定です。まだ一度も支部の会合に参加したことのない卒業生の皆さん、今年こそ是非出席してみてください。きっと多くの得るものがあると信じます。

名城大学建築同窓会岐阜県支部連絡事務所 清水敏生 TEL.058-323-2012



『関西支部』だより

関西支部 支部長 緩利 良人 (平成元年卒)

我々関西支部は、名城大学建築学科卒業の関西出身者や在住者が集い、毎年各県持ち回りで総会を行っています。各々の地域の名所・旧跡の見学や歴史ある建物を訪ねるなど、楽しい見学会を兼ねて旧交を温めています。

昨年は、一年前から予約をしておいた奈良ホテルでの開催でした。『西の迎賓館』と呼ばれ、皇族の奈良宿泊の際に利用されている格式の高いホテルです。私も、何度か外観は拝見していましたが敷居を跨ぐのは初めてのことで、大変楽しみにしていました。ホテルの内部をスタッフの方にゆっくりと案内していただき、素晴らしい建物に触れることが出来ました。本当に参加して良かったと思います。関西各地での開催ですので、見聞を広める意味でも毎年楽しみにしています。

今年も6月に滋賀県で総会を開催する予定をしています。建設業界にとって依然として厳しい状況下ですが、同じキャンパスで学んだ同志が顔を合わせることで、明日の仕事への糧とすることも可能かと存じます。一度も支部の総会に参加した事のない卒業生の皆さんも今年こそ是非出席してみてください。きっと素晴らしいお土産を持って帰って頂けることでしょう。お待ちしております。

支部長 緩利 良人 TEL.0748-88-5147

事務局 小巻 弘幸 TEL.078-912-7182



建築同窓会企画による現場見学会の開催

建築同窓会事業活動の一環として建築学科、学生との交流を図る機会を模索しておりましたところ大塚先生(構造)より学生に現場見学をする機会があれば是非実施してほしいとの要望がありましたので下記の通り、現場見学会を実施しました。

■実施日……8月5日(水)13:30~17:00

■見学現場……豊田市立寺部小学校・こども園改築工事、豊田スタジアム
(W・R・C・S混構造 … ハイブリット工法)

■参加者……建築学科—大塚先生、柳沢先生 学生—12名
同窓会—石川、大河内(卒業社員—4名) 計20名

【石川同窓会長のコメント】

今回、初めて見学会を実施しましたが、学生の反応は非常に良かったと感じました。特に学内の勉強だけでは知りえない体験が学生にとって魅力であったのではないかと思います。

試行的に実施しましたが、同窓会を通して各方面の卒業生から良い機会となる企画を提案して頂ければ会社の認知と、学生に同窓会(卒業生)の存在を知って頂くことにつながります。今後、同窓会として積極的に今回のような企画を実施してまいりたいと考えております。

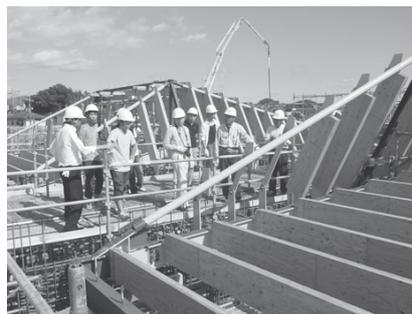
卒業生の皆さまには是非、実施企画のお話をして頂くようお待ちしております。

【大塚准教授のコメント】

大学に戻って学生に話を聞いたところ、講義以上に面白かったようです。次回は、今回の話を聞いて希望者が多くなり人数調整が難しくなりそうです。今後、このような企画をすることについて又、相談させていただきます。



▲石川同窓会長挨拶



▲屋根組梁見学



▲豊田スタジアム見学

名城大学建築同窓会新規ホームページ立ち上げにあたって

拝啓 貴社におかれましては時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配賜り厚く御礼申し上げます。

さてこの度、名城大学建築同窓会は新規にホームページを立ち上げることになりました。

今までHPは休眠状態であったため会員の皆さま方に対しまして情報提供が出来ず大変ご迷惑をお掛けしておりました。紙媒体では年1回、同窓会報8,500部を発行しておりましたが、今の世の中は情報化社会であり、会報だけでは会員の皆さまに十分な同窓会活動の情報提供が出来ていませんでした。

現在、建築同窓会は創立53年が経過し卒業生は1万有余名の多くの卒業生を輩出しております。又卒業生の皆さまは各方面、各層で活躍していることと存じますが、そうした存在をつなぐ力が充分生かされていませんでした。

そこで新たな情報発信ツールとしてホームページを充実させ同窓会、建築学科、就職情報等をより満足度の高いレベルで提供し、多くの会員の皆さまにアクセスして頂けるようにしてまいりたいと考えております。

名城大学建築同窓会
会長 石川 豊

建築学科教職員

教 授	建築計画	鈴木博志	准教授	環境計画	岡田恭明 ○
〃	建築計画	高井宏之	〃	建築計画	谷田 真 ○
〃	建築材料	寺西浩司	〃	建築材料	平岩 隆
〃	歴史意匠	溝口明則	〃	歴史意匠	三浦彩子 ○
〃	建築構造	武藤 厚	〃	建築構造	宿里勝信 ○
〃	建築構造	村田 賢 ○	〃	建築計画	柳沢 究
准教授	建築計画	生田京子	〃	環境計画	吉永美香
〃	建築構造	大塚貴弘			○印は名城大学卒業生

建築同窓会賞

建築同窓会は、学部卒業生及び大学院修了生の優秀者に建築同窓会賞を贈り表彰しています。受賞者は、各研究室が表彰候補者を選出し、学科より同窓会に推薦して決定しました。下記の受賞者には、学位記授与式にて建築同窓会会長より表彰状を授与します。

平成26年度受賞者

福重 裕大(溝口研)	奥野 文尊(寺西研)	内田 慎(谷田研)	諏訪 匠(柳沢研)
志手 咲穂(高井研)	今田 夕稀(生田研)	高 心印(武藤研)	
佐藤 葵(三浦研)	山口真幸+山本雄介(大塚研)	柴田 涼司(宿里研)	

■ 就職・進路関係について

武藤 厚（就職・進路支援委員）

はじめに

大学ではキャリアセンターと学科が連携して就職支援をしています。ここ数年の就職活動を取り巻く環境は毎年大きな変化があり、下記、状況を整理してみたいと思います。

近年の建築及び関連業界の求人状況としては、経済見通しに関する一定の期待感の中、復興需要の全国的な連関、オリンピック関連での都内へのシフト、地域的には名古屋駅前の大規模な建築ラッシュに加え、住宅関連では消費税率増後の需要減の影響が予想の範囲内であったこと等から、全体としては新卒学生への採用意欲は増加傾向となっています。一方、中・長期的な日本経済への見直しへの不安は拭えず、職域による温度差は感じられるものの、設計事務所や住宅産業の設計職、一部官公などからの求人意欲も着実に増えています。全般としては、総合建設業の特に施工管理職への就職は比較的容易で、8月以降でも多くの企業の追加募集がなされる異例の状況となっています。さて、就職後ですが、入社後数年で離職する学生も一定の比率でみられ、建設関連企業では約3割に達していると言われていています。その原因は多様ですが、主としてその職種に対する能力不足やコミュニケーション不足などが挙げられます。改めて適性の把握と情報収集を含めた就職活動への早めの取り組みと能力の向上が重要と考えられます。

就職状況

数年来の就職状況としては、前述のように総合建設業が30%前後を占め、最多となっています。職種は施工管理・設備施工管理が主であり、スーパーゼネコンといわれる全国展開の大企業から、東海地区の中堅企業まで幅広く就職しています。今年度の求人も堅調で、多数の企業が大学を求人訪問しており、この職種を希望する学生には比較的就職しやすい状況となっています。住宅産業が20%前後で続いており、この産業の就職率も増加傾向となっています。設計事務所と官公庁は7%前後、建材メーカーなどが5%前後となっています。官公庁への就職希望者はここ数年増加傾向を示していますが、就職者数の増加に至っていません。また、設計事務所を希望する学生を中心に大学院へ進学し、キャリアアップした後の就職を検討する学生が増えています。平成25年度の大学院進学率は約10%となっています。建築学科の全国的な進学率は50%に達しており、今後、進学率は増加していくことが予想されます。

就職活動と就職支援

一般企業への就職活動日程は、現4年/M2までは「3年次の春からの情報収集→12月から具体的な活動→4月から選考・中旬頃までに試験→4月から連休明けに合否決定」が一般的でした。総合建設業では大企業の就職スケジュールが最も早く、少し遅れて準大手、東海地方の企業となっています。住宅産業は比較的広範囲の時期に就職試験が行われていますが、やはり、大企業の就職スケジュールが早いようです。少し細かく見ていきますと、1月ごろから企業による学生動向の把握に関する活動が活発化し、見学会等を含めた水面下での選考活動もなされています。なお報道されているように、現在の4年生の段階では、公式な就職活動のスケジュールが、「12月からの広報活動が3月に、採用選考活動が8月から」でしたが、現在の3年生からは再度変更となり「選考活動は6月から」、大学の対応もそれに伴って後ろに移動となります。これらの公式な経団連加盟企業の公式な日程も視野に入れつつ、現在は各企業・学生も「個々の企業毎の動きを探りながら…」の状況となっています。就職活動を始めるにあたり、連絡先等の「入口」として、「リクナビ」や「マイナビ」への登録が一般的になっています。大学に届く求人依頼には、「学校推薦のみ」「学校推薦と自由応募の並立」「自由応募のみ」の3種類があります。「自由応募」が殆どですが、逆に、早期離職者に自由応募の学生が比較的多いことから、学校推薦を求める企業が幾分増加しています。キャリアセンターでは3年/M1を対象に「ガイダンス」「模擬試験」「各種セミナー」等多くの就職支援を行っています。建築学科でも昨年度同様に企業と連携したセミナーを開催し、殆どの学生が参加する情報共有の場となっています。また、就職活動開始後、キャリアセンターと学科就職委員が継続的に就職相談に応じており、幅広く学生の就職活動を支援します。なお、3年/M1/M2の夏季休暇等を利用したインターンシップへの参加も着実に増え、職場体験・情報収集の良い機会になっています。

就職活動への心構え

就職活動では「自分探し」が重要と言われますが、学生時代には「自分作り」が重要かと思います（私見）。また、建設業では希望の職種と勤務地の両方を満足することが困難な場合も多く、自分の将来的なスタンスを考え、企業研究も積極的に行っていくことも薦めています。

平成26年度事業報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

① 総務委員会

- 1) 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して援助を実施しました。
- 2) 会議の開催
通常総会 (6/15) 1回
役員会 (4/10、5/19、6/5、7/30、9/16、10/7、11/18、12/17、2/6) 9回
評議員会 (5/19) 1回
- 3) 慶弔に関する事務を取り行いました。
- 4) 建築同窓会への協力支援をしました。
- 5) 第20回情報交流会 (H26.11.29) への支援をしました。
- 6) 学内各行事への参加並びに協力支援をしました。

② 財政委員会

- 平成26年 10月21日 年会費納入案内・交流会案内発送 平成26年度卒業生 158通
22日 第1回財政委員会 3名
24日 年会費納入案内・交流会案内発送 平成25年度卒業生 125通
24日 年会費納入案内・交流会案内発送 会員・新会員 657通
27日 年会費納入案内・交流会案内発送 平成24年度卒業生 135通
11月 4日 年会費納入案内・交流会案内発送 平成23年度卒業生 176通
4日 年会費納入案内・交流会案内発送 平成22年度卒業生 117通
11日 年会費納入案内・交流会案内発送 在校生保護者へ 122通
- 平成27年 3月19日 建築学科卒業祝賀会 受付にて年会費納入依頼(3名出席)
3月26日 2・3・4年ガイダンス時、年会費納入・ブライ/ビジーポリシー記入提出依頼
- 新規永年会員お礼状発送 10通
年会費納入のお礼状発送 173通
会費納入学生会員、卒業生全員にお礼状発送 60通

③ 事業・経済交流委員会

- 1) 第20回情報交流会を開催致しました。
平成26年11月29日(土)名城大学天白キャンパスにて開催。
溝口教授の記念講演や立川教授とゼミ生によるトークセッションが行われました。
参加総数152名(来賓30名、学生39名)
タワー75にて懇親会も開催致しました。

④ 会報・名簿・IT委員会

- 1) 建築同窓会会報(143号-A4版)を8,500部発行しました。(前号と同数)
- 2) 在学会員に配布。会員6,401人(前年は6,670人)には郵送しました。
- 3) 名簿の追加、訂正を行いました。
- 4) ホームページの修正をしました。

⑤ 組織委員会

- 平成26年 5月20日(火) 第1回組織委員会開催(名駅サテライト会議室)平成25年度活動報告と平成26年度活動計画、平成26年6月15日(日)建築同窓会総会の参加要請
- 平成26年 8月 6日(火) 第2回組織委員会開催(嘉文栄本店)新役員との顔合わせ
- 平成26年10月16日(木) 第3回組織委員会開催(名駅サテライト会議室)第20回新春改め情報交流会について内容報告とチラシ配布
- 平成26年11月14日(金) 第4回組織委員会開催(名駅サテライト会議室)情報交流会について内容と参加者数の確認等
- 平成27年 3月26日(木) 岐阜市図書館(ぎふメディアコスモス)見学会開催

平成26年度決算報告

項目	予算額	決算額	備考
学生会員会費	1,000,000	600,000	学生会員会費(H25卒含む)60名 情報交流会
事業収入	1,000,000	412,000	
理工同窓会援助金	346,900	346,900	
建築同窓会年会費	1,200,000	819,000	年会費173名(19新規11名)、H26卒学生会員10名
寄付金	100,000	74,500	周年記念事業特別会計に充当
利子及び雑収入	800	623	利子(元帳+各委員会)・他
活動準備金より充当		445,115	
合計	3,647,700	2,698,138	

項目	予算額	予算内訳	決算額	
総務委員会	540,000	会議費	160,000	83,750
		慶弔費	100,000	29,980
		学科支援費	150,000	219,000
		運営費	130,000	28,708
			361,438	
財政委員会	180,000	入会案内郵送料	110,000	150,151
		振込票印刷費	15,000	1,600
		運営費	55,000	62,773
			214,524	
事業・ 経済交流委員会	1,020,000	見学運営費	20,000	0
		経済交流運営費	1,000,000	637,209
				637,209
会報・名簿・ IT委員会	1,620,000	印刷費	950,000	496,220
		会報郵送料	590,000	803,725
		名簿調査作成費	50,000	50,000
		ホームページ作成費	20,000	0
		運営費	10,000	6,260
				1,356,205
組織委員会	230,000	支那補助・設立準備費	140,000	40,000
		旅費	20,000	0
		運営費	70,000	36,914
				76,914
予備費	57,700		0	
合計	3,647,700		2,646,290	

平成26年度期首財産(平成26年4月1日)前年度繰越金			
	周年事業積立金H25	500,000	
	周年事業積立金H26	1,000,000	
	活動準備金	3,142,451	
			4,142,451
平成26年度期末財産(平成27年3月31日)次年度繰越金			
	前年度繰越金	4,142,451	
	収入への充当金	-393,267	
			3,749,184

平成26年度会計報告承諾

名城大学建築同窓会26年度(2014年)会計報告書を帳簿、領収書等により監査したところ適正であることを認めます。

2015年(平成27年4月16日)

監事 荒川 建昭

監事 安藤 洋

平成27年度事業計画

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

① 総務委員会

事業計画(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

- 1) 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して援助を実施する。
- 2) 会議の開催
 - ・通常総会開催 平成27年6月14日(日) 午前9時30分～10時20分
天白キャンパス共通講義棟南館S504教室
 - ・役員会開催 7～8回を予定 総務委員会 1～2回開催
 - ・評議委員会開催 平成27年5月21日(木) 名駅サテライト 午後6時30分
 - ・正副会長会議 平成27年5月8日(金)ほか、1～2回開催
- 3) 慶弔に関する事務
- 4) 学内各行事への参加と協力支援・協賛等で、同窓会と学内の連携強化を図る。
- 5) 第21回情報交流会への支援。
- 6) 開学90周年事業に向けた会員への周知活動、並びに協力の実施。

② 財政委員会

- 1) 前年に引き続きガイドスにて学生会員へ会費の納入をお願いする。
- 2) 同窓会として会費の納入と共に、在校生にプライバシーポリシーによる学生の名簿を充実する取り組みをする。
- 3) 会員への年会費納入案内を発送する。
- 4) 学年会員・保護者様へ会費納入案内を発送する。
- 5) 卒業生(26年度)へ会費納入案内を発送する。
- 6) 会費納入会員へ礼状ハガキを発送する。
- 7) 財政委員会を年2回程度、開催する。

③ 事業・経済交流委員会

[経済交流]

- ・第21回情報交流会
平成27年11月28日(土) アイリス愛知にて開催予定。

④ 会報・名簿・IT委員会

- 1) 建築同窓会会報(144号-A4版)を8,500部発行。
- 2) 学生会員に配布。会員に郵送。
- 3) 保護者に配布。
- 4) 名簿の追加、訂正。
- 5) ホームページのリニューアル。

⑤ 組織委員会

- 平成27年 5月 第1回組織委員会開催(名駅サテライト会議室)平成26年度活動報告と平成27年度活動計画他
- 平成27年 7月 第2回組織委員会開催 新役員の顔合わせ会
- 平成27年10月 第3回組織委員会開催(名駅サテライト会議室)H27情報交流会について内容報告とチラシ配布
- 平成27年11月 第4回組織委員会開催(名駅サテライト会議室)H27情報交流会について内容と参加者数の確認等
- 平成28年 3月 第5回組織委員会開催(名駅サテライト会議室)平成27年度活動報告と平成28年度活動計画他

平成27年度予算

項目	予算額	備考
学生会員会費	1,000,000	学生会員会費:¥10,000×100名 情報交流会
事業収入	1,000,000	
理工同窓会援助金及び学生会員援助金	346,900	¥3,000×300名、永年会費¥30,000×10名
建築同窓会年会費	1,200,000	
寄付金	100,000	
利子及び雑収入	800	
合計	3,647,700	

項目	予算額	予算内訳	
総務委員会	540,000	会議費	110,000
		慶弔費	100,000
財政委員会	180,000	学科支援費	200,000
		郵送費	110,000
		印刷費	15,000
事業・経済交流委員会	1,020,000	運営費	55,000
		見学等事業運営費	20,000
会報・名簿・IT委員会	1,620,000	経済交流運営費	1,000,000
		会報印刷費	950,000
		会報郵送費	590,000
		名簿調査作成費	50,000
		ホームページ作成費	20,000
組織委員会	230,000	運営費	10,000
		支部援助・設立準備金	140,000
		旅費	20,000
予備費	57,700	運営費	70,000
合計	3,647,700		57,700
			3,647,700

平成27年度期首財産(平成27年4月1日)前年度繰越金	
周年事業積立金H25	500,000
周年事業積立金H26	1,000,000
周年事業積立金H27	1,500,000
活動準備金	2,249,184
	3,749,184

平成28年 建築同窓会総会のご案内

平成27年度の建築同窓会の総会を下記により開催いたします。多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

●とき 平成28年6月12日(日)

●ところ 名城大学 天白キャンパス内

9:30～建築同窓会総会 共通講義棟南館S504

10:30～理工同窓会総会 共通講義棟南館S201

11:30～講演会 共通講義棟南館S201

13:00～懇親会 タワー75 15階レセプションホール

詳細につきましては、下記の理工同窓会ホームページにおいてもごらんになれます。

理工ホームページmeijyo-rikou-dousoukai.jp/

第22回 情報交換会開催のご案内

第22回情報交換会を開催いたします。多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

●とき 平成28年11月26日(土)

●ところ 天白キャンパス内

第21回情報交換会も平成27年11月28日に盛大に開催することができました。会員各位のご協力に感謝いたします。第22回は上記の日程で予定しております。詳しくはHPにてご案内します。

名城大学建築同窓会 経済交流委員会

名城大学建築同窓会会則

第1章 総 則

- (名称)
第1条 本会は名城大学建築同窓会と称する。
- (事務所)
第2条 本会の事務所は名城大学理工学部建築学科内に置く。
- (支部)
第3条 1. 本会は役員会の承認を得て原則として地域単位とする支部を設置することができる。
2. 支部細則は必要に応じ役員会の議決を経て設けることができる。
- (目的)
第4条 本会は会員相互の親睦を図ると共に地域社会への貢献、文化の振興を図り名城大学及び名城大学建築学科の隆盛発展に寄与することを目的とする。
- (事業)
第5条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 会員名簿の発行
2. 会報の発行
3. 懇親会、見学会、講演会及び研究会等の開催。
4. 学生会員に対する援助
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第2章 会 員

- (組織)
第6条 本会は会員、特別会員、名誉会員を以て組織する。
- (会員の資格)
第7条 本会会員となる資格は次の各項の定めるところによる。
1. 会 員 (1) 名古屋専門学校応用物理建築分科卒業生。
(2) 名城大学理工学部建設工学科建築分科卒業生。
(3) 名城大学理工学部建築学科卒業生。
(4) 名城大学大学院工学研究科建築学専攻修了生。
(5) 名城大学大学院理工学研究科建築学専攻修了生。
(6) 前(1)～(5)項に籍を置く者で役員会で承認した者は会員に準ずる。
2. 名誉会員 本会に功勞のあるもので総会の承認するもの。
3. 学生会員 前1項の(3)、(4)在籍者。
4. 特別会員 名城大学理工学部建築学科の教職員。
5. 賛助会員 個人または団体で本会の事業を賛助するもので評議員会の承認を得たもの。
- (会費)
第8条 1. 年会費は3,000円とする。納入した会費は返却しない。
2. 60才以上の会員が永年会費30,000円を納入した場合は、以降の年会費を免除する。
3. 学生会員は、卒業後5年迄の会費10,000円を納入する。

第3章 総 会

- (総会に召集)
第9条 1. 通常総会は毎年1回事業年度終了後3ヵ月以内に会長が召集する。
2. 臨時総会は評議員会または役員会で必要と認めるとき会長が召集する。
- (総会の通知)
第10条 総会の召集はその2週間前までに日時・場所を示した文書、又は校友会会報をもって会員及び名誉会員に通知しなければならない。
- (総会の議決事項)
第11条 総会では次の事項を議決する。
1. 事業報告、収支予算ならびに財産目録の承認に関する事項。
2. 事業計画及び予算に関する事項。
3. 重要な財産の取得、処分に関する事項。
4. 評議員会、役員会で必要と認められた事項。
5. 評議員会における選出役員を承認する事項。
- (総会の議決)
第12条 1. 総会の議事は出席会員の過半数の同意で成立する。
2. 議事の議決同意が可否同数の時は議長が決める。
3. 総会の議長は出席会員の中から選任する。
- (議事録)
第13条 1. 議長は総会の議事について議事録を作らなければならない。
2. 議長は議事録署名人を出席会員の中から選任する。

第4章 役員及び会議

- (役員)
第14条 1. 本会には次の役員を置く。
(1) 名誉会長 1名 (7) 常任幹事 若干名
(2) 会 長 1名 (8) 委員長 専門委員会
(3) 副会長 6名以内 (9) 会 計 1名(補佐1名)
(4) 監 事 2名
(5) 支 部 長 各支部1名
(6) 学内幹事 若干名
2. 本会には相談役及び参与を置くことができる。
相談役は役員会に諮って会長が推薦する。
参与は本会の役員であった者の中から会長が推薦する。
相談役、参与は本会の諮問に応ずる。
- (役員を選出)
第15条 1. 会長、副会長、会計、監事は評議員会の推薦により選出する。
2. 名誉会長は建築学科長がこれにあたる。
3. 支部長は支部を構成する正会員の中から選出する。
4. 学内幹事は学内の会員及び特別会員の中から互選により選出する。
5. 常任幹事は会長の推薦により会員の中から選出する。
- (役員の職務)
第16条 1. 会長は本会を代表し会務を総理し評議員会役員会等の議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し会長に事故ある時はその職務を代理する。
3. 支部長は支部を代表し支部の会務を掌理する。
4. 学内幹事は学科内の意見を集約し会との疎通を図る。
5. 常任幹事は会長の補佐として各事業を援助する。
6. 委員長は各専門委員会を代表し、委員会の会務を掌理する。
7. 会計は本会の会計事務を行う。

8. 監事は年1回以上本会の事業及び会計監査を行いその結果を総会に報告する。
- (役員任期)
第17条 1. 役員任期は2年とする。
2. 補欠による役員任期は前任者の残任期間とする。
3. 役員は再任を妨げない。
4. 役員は任期中に退任しようとするときは評議員会の承認を必要とする。
- (役員会)
第18条 1. 役員会は本会の運営を円滑にするための執行機関である。
2. 役員会は名誉会長、会長、副会長、監事、各支部長、常任幹事、学内幹事、各委員長、会計、会計補佐によって構成する。尚 相談役、参与については会長が必要に応じ出席を求める。
3. 役員会は役員過半数の出席をもって会議が成立し、出席者の過半数の同意がなければ議決することができない。尚出席出来ない時は委任状を議長宛に提出し、議決権行使することが出来る。
- (専門委員会)
第19条 1. 専門委員会は第4条の目的と第5条の事業を円滑に達成するために評議員及び会員の中から若干名を選出し、これを構成する。
2. 専門委員会は次による。
(1) 総務委員会 (5) 組織委員会
(2) 財政委員会 (6) その他必要となる委員会
(3) 事業・経済交流委員会
(4) 会報・名簿・IT委員会

第5章 評議員及び評議員会

- (評議員)
第20条 1. 本会は会員の卒業年度の代表として評議員を選出する。
2. 評議員は評議員の推薦による。又は各期会員の中から選出する。
- (評議員の任期)
第21条 1. 評議員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2. 評議員が欠けた場合の補充評議員の任期は前任者の残任期間とする。
- (評議員会)
第22条 1. 評議員会は役員及び各期評議員で構成し会長が必要と認められた場合に会長がこれを召集する。
- (評議員会の開催)
第23条 1. 評議員会は定例評議員会と臨時評議員会とする。
2. 定例評議員会は、毎年総会の1箇月前とする。
3. 臨時評議員会は役員会で必要と認めるとき、または評議員の3分の1以上の要請があったときに開催する。
4. 評議員会の召集は議案を付して10日前までに通知しなければならない。
- (評議員の議決)
第24条 1. 評議員会における議事の議決は総会に準ずる。
- (評議員の審議事項)
第25条 1. 評議員会の審議事項は、次の各号に定めるところによる。
2. 総会の付議事項に関する事。
3. 役員選出に関する事。
4. その他必要と認める重要事項。
- (基本資産)
第26条 基本資産は会費、寄付金及び助成金でこれを構成する。
- (経費の支弁)
第27条 本会の経費は基本資産ならびに事業から生ずる収入でこれを支弁する。(事業年度)
- 第28条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。(特別会計)
- 第29条 本会に特別会計を設けることができる。

第7章 雑 則

- (会則変更)
第30条 本会則は総会の議決によって変更することができる。
第31条 本会は会務運営及び第5条の事業遂行のために必要な委員会及び部会を設けることができる。

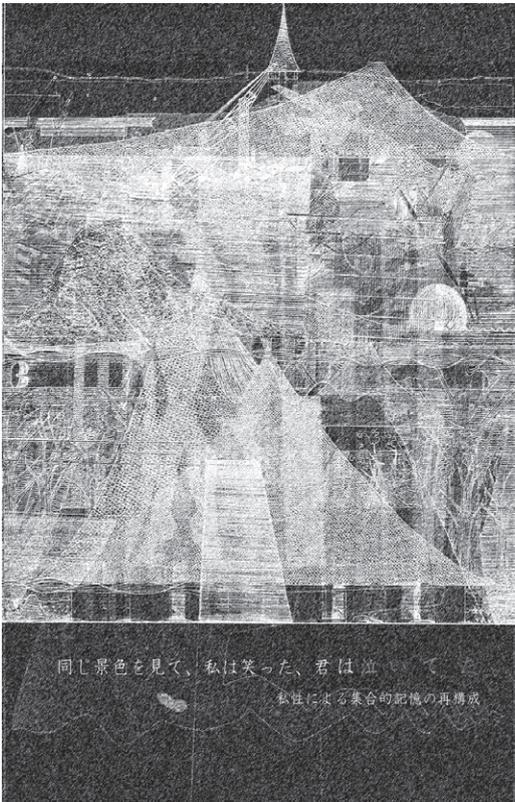
附 則

- (1) 本会則は、昭和38年9月22日より施行する。
(2) 昭和45年9月14日会則一部改正及び訂正施行する。
(3) 昭和51年8月7日会則一部改正施行する。
(4) 昭和57年9月12日会則一部改正及び訂正施行する。
(5) 昭和60年9月8日会則一部改正及び訂正施行する。
(6) 平成元年9月17日会則一部改正及び訂正施行する。
(7) 平成5年9月18日会則一部改正及び訂正施行する。
(8) 平成6年9月25日会則一部改正及び訂正施行する。
(9) 平成7年9月24日会則一部改正施行する。
(10) 平成8年9月21日会則一部改正及び訂正施行する。
(11) 平成10年9月20日会則一部改正及び訂正施行する。
(12) 平成12年10月1日会則一部改正及び訂正施行する。
(13) 平成13年9月30日会則一部改正及び訂正施行する。
(14) 平成18年9月10日会則一部改正及び訂正施行する。
(15) 平成19年9月30日会則一部訂正及び訂正施行する。
(16) 平成20年9月28日会則一部訂正及び訂正施行する。
(17) 平成23年6月19日会則一部訂正及び訂正施行する。

優秀賞

寺岡 波瑠

記憶のカタチに触れる 短歌を可視的に表現するドローイング



同じ景色を見て、私は笑った、君は泣いて
私性による集合的記憶の再構成

概要

瀬戸内海に浮かぶ因島に日立造船因島工場という約100年の歴史を持つ造船所がある。造船所はいつかその機能を失い、近代産業遺産にならなければ埋め立てられてしまうかもしれない。造船所のような近代産業遺産の価値とは？私は、大勢の人々に影響を与え、私性によって評価されることだと考える。価値を建築によって人々に伝える方法を探求した。その手法は、造船所について詠まれた短歌を利用する。短歌は詠まれた風景と作者の私性によって構成されている。その短歌をドローイングで可視的に表現することで、空想的世界を想像させる。鑑賞者は、建築のファサードと敷地環境から立体空間の想像を誘発する。造船所の歴史を体験していない人々は、鑑賞することで当時の人々の造船所への感情や島の歴史を想像することができる。私性によって想像する空間は人それぞれで答えはないのだが、想像の先に記憶が構成されていく。ドローイングの鑑賞により想像を繰り返すことで、記憶として定着することを目的とする。歴史的価値を伝える方法として、短歌を可視的に表現したドローイングは長い文章や年表による説明よりも最適である。

Q 製作日数は？

構想1年半 制作2ヶ月

Q かかった費用は？

模型代、印刷用の紙、梱包等で6~7万

Q この作品を作ったきっかけは？

最初は島民にむけた提案を考えていたのですが、この問題解決の糸口となるのは島について知らない私の卒業設計の鑑賞者なんだと気づきました。そして、自分にしかできないような本当にやりたいことをやろうと思いい、アンビルトに興味をもち、ピータークックやアーキグラムのドローイングを知ったことがきっかけでこの作品ができました。こんな自由奔放な私に最後までご指導いただいた生田先生には本当に感謝しています。

Q ここに一番こだわったという所は？

全てです。印刷用紙一枚をとってもこだわって選びました。

Q 制作中辛かったことは？

毎日訪れる睡魔との葛藤時間です。意識を失うようにペンを握りしめ、座ったまま眠りについてしまうことも多々ありました。研究室の友人も皆、その葛藤と戦っておりスヌーズ機能をつけたアラームが朝方鳴り続けていました。辛かったことはたくさんありましたが、そんな辛かったことも今となっては全てが思い出です。

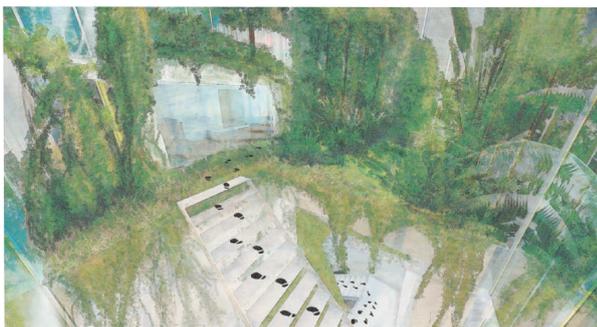
Q 今後について教えてください。

来年度からは、京都の芸大に進学します。建築以外を学ぶ人からも刺激をもらい、建築という枠に囚われずに様々なことに挑戦していきたいです。

優秀賞

高野 哲也

そして、自閉症のままおじいさんになればいい。
～自閉症者と一般の人々が共生する設計手法の提案～



概要

自閉症は、その名称から自分の殻に閉じこもった心の病気であるといった考えが存在するが、それは誤りで、生活環境によって発症するものではない先天性の脳機能不全です。一見すると障害があるように見えない特殊性から、精神保健に関する歴史の中でも、ひどい誤解を受けてきた障害です。その誤解は社会的烙印(スティグマ)を生み、自閉症者への様々な偏見や差別が今日も続いています。また、社会福祉の面では親が先に亡くなった後において、子である自閉症者が何ん自由なく生活を送ることが可能であるのかといった「親亡き後」問題が大きな課題となっており、自閉症者の経済的自立をいかに実現するかが重要な問題となっています。私は、そんな、「見えない障害」である自閉症の特殊性を建築によって体現し可視化することにより、自閉症に対する人々の正しい理解と負の意識の払拭を促すとともに、都市が自閉症者にとって住みやすい社会環境へと成熟する切欠となる提案を行います。そこで、自閉症者に対する「わかりやすさ」に配慮し、「生活行為と空間は、一対一の関係を持つ。」「自閉症者の一日の行動に対応した空間を時間軸に合わせて、順に配置していく。」「自閉症者の生活動線を一筆書きにする。」の3つのルールを設けた。このことにより自閉症者は安心して、生活を送ることができ、一般の人々の生活に部分的に介入することにより、社会的交流を促していきます。



Q 製作日数は？

構想6ヶ月 制作2か月

Q かかった費用は

模型材料費含めて5万円程度

Q この作品を作ったきっかけは？

私の兄の影響です。私の兄は自閉症で、自閉症者の将来はグループホームや施設に送られてしまうのがほとんどです。そんな背景の中、一般の人々と自閉症者が違う世界で生活していることに大きな疑問を抱きました。そこで、自閉症者と一般の人々が共存することによって、自閉症者の自立を実現し一般の人々との社会的な交流を促します。自閉症者が一般の人々の生活に部分的に入ってくることによって、ときにはその家族の兄弟の一人の存在として、ときには老夫婦と共に食事をする存在のように、彼らの生活にそっと花を添えるような関係性が生まれるデザインはないものかと考えました。

Q ここに一番こだわったところとは？

作品に込めた社会に対するメッセージ性です。卒業設計は、言ってしまうと実際には、建たないものです。そこで、学生である私に対してどのような訴えができるのかを考え、作品を通してメッセージが伝わるようにこだわりました。

Q 制作中つらかったことは？

3年生の手伝いがおらず、2年生のお手伝いさんにカッターの切方から教えるのは、大変でした。

Q 今後について教えてください

名城大学の大学院へ進学します。将来は、弱い立場の人のために働ける建築家になりたいと考えています。